

議題 1

議案第39号

平成29年8月29日提出

平成30年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択に
ついて

[審議する教科(種目)]

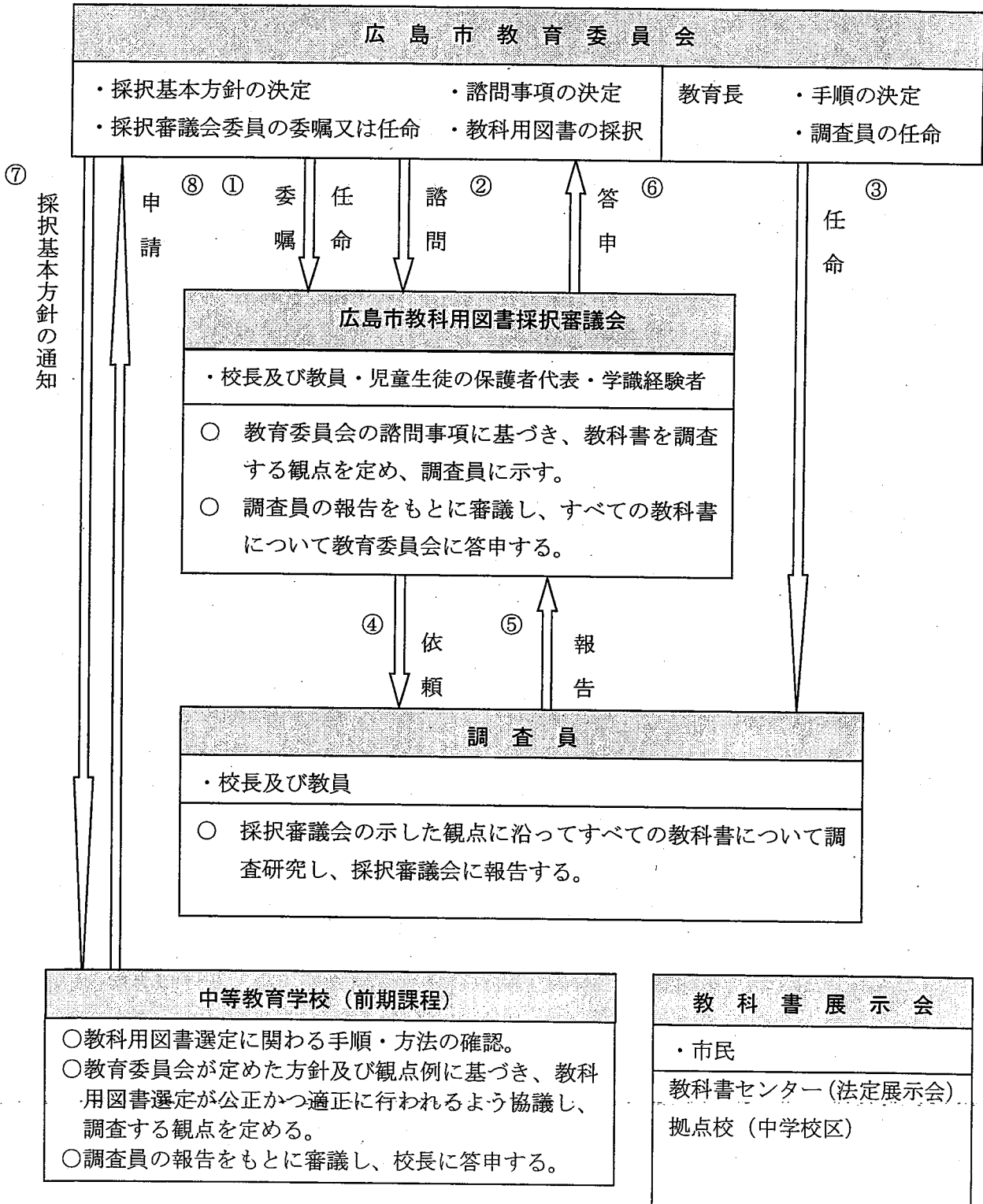
特別の教科 道徳 (道徳)

平成29年8月教育委員会議

平成30年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について

資料 1

広島市立義務教育諸学校用教科用図書の採択の手順



「小学校用教科書目録（平成30年度使用）」（文部科学省）に登載された

「特別の教科 道徳」の教科書一覧

番号	種目	発行者の番号・略号	種類数	点数
1	道徳	2東書 11学図 17教出 38光村 116日文 208光文 224学研 232廣あかつき	8	66
合計（8者）			8	66

※ 種目・・・教科ごとに分類された単位

発行者の番号・・・発行者を表す番号

種類数・・・種目別に、道徳教科書1年用から6年用までの1シリーズのものを1種と数えたもの

点数・・・種目別、学年別、巻別に、例えば上・下巻冊は2点と数えたもの

発行者一覧

発行者の番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
17 教 出	教育出版株式会社
38 光 村	光村図書出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
208 光 文	株式会社光文書院
224 学 研	株式会社学研教育みらい
232 廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社

道徳科教科書閲覧者からの質問等について

教育センター展示：6月16日(金)～7月5日(水)	13件
小学校展示：6月15日(木)～8月8日(火)	44件
指導第一課	4件
質問等総数	61件

1 教科書展示について

- ・ A小学校では、家庭科室のテーブルに教科書が並べられており、閲覧がしやすかった。
- ・ 教育センターは場所が不便である。展示場所もわかりにくい。本棚に配架してあり、探しにくい。また、教科書についての説明も事務的で不十分であった。
- ・ 教材研究をしたり、指導計画を立てたりしたいので、見本本を早く学校に届けてほしい。
- ・ すべての小学校で展示されず、展示されても2日間という短い期間のため、広く市民に開かれているとは言えない。市民への周知と展示方法を検討するべき。
- ・ 教育センターの展示期間をもっと長くしてほしい。
- ・ 「著作権の関係上、表紙及び内容の複写（コピー、写真撮影等）はできません。」下線部分を付け加えてほしい。
- ・ コピー機があればありがたい（有料でもよい）。
- ・ 現場の先生方の閲覧が少ないのではないか。

2 全体を通しての意見・質問

(1) 採択について

- ・ どの教科書を採択するのかは、各学校で決めることができるのか。
- ・ どのような基準で教科書を選ぶのか。
- ・ 教員の意見は反映されるのか。ぜひ教員の意見を反映してほしい。
- ・ 採択基本方針や採択に係る日程・開催場所等を速やかにもしくは遅滞なく公開してほしい。
- ・ 採択の「観点・視点・方法」を速やかにもしくは遅滞なく公開してほしい。
- ・ 調査・研究報告書を速やかにもしくは遅滞なく公開してほしい。
- ・ 答申を速やかにもしくは遅滞なく公開してほしい。
- ・ 採択に係る教育委員会議を傍聴者に公開してほしい。
- ・ 採択審議会会議録や教育委員会議会議録を速やかにもしくは遅滞なく公表してほしい。
- ・ 採択結果・採択理由を遅滞なく公開してほしい。

(2) 教科（授業）の在り方について

- 全体的に「よい子にならないければ人間ではない」という雰囲気を感じる。本音で話し合うことができないのではないだろうか。
- 徳目の押し付けにならないように、議論し、考え合うような教科書や授業であってほしい。
- 道徳が教科化されることで、教室での学びが窮屈になると思う。先生が工夫して授業ができるような自由度があるべきだ。
- 子どもたちが自由に自分の意見を出し合える授業にしてほしい。
- 教育勅語を盛り込めば、戦前と同じ。押しつけにならないようにしてほしい。心はもっと自由であるべきだ。
- 身近な問題について考え、自分の意見を主張できる子どもを育てる必要がある。
- 自分と違う相手とどう付き合っていけばいいのか、一人一人違ってもいいのだという事例を入れて授業をしてほしい。そして、心が広く、思いやりのある人間として成長してほしい。
- あいさつ、きまりなどのルールや規範の押し付けを感じる。

(3) 重さについて

- 絵や写真もきれいで読みやすいが、重いので子どもたちにとって負担になる。

(4) 別冊について

- 別冊は必要か。ワークシートがデータ化されているとよいと思う。
- 書くスペースが多く、1年生の初めから自分の考えを書かせるのは難しいと思う。
- 別冊については、子どもも先生も大変だと思う。
- 低学年に記述が多いのは負担になる。

(5) 教科書の内容について

- 同じ教材が取り上げられているが、学習の手引きに違いがある。
- いろいろな角度から自分の生き方を考えられるよう、多様な教材があるとよい。
- ケータイ電話との付き合い方など、現代的な課題について取り上げているのはよい。
- 子どもの権利条約を学ぶのは1社のみ。人権について学ぶことはよいことだ。
- 地域教材や平和学習など、広島らしい教材を扱ってほしい。
- 平和教材が少ないように思う。低学年は、平和ノートを道徳に入れていたが、学習できなくなるのか。
- 教材の出典が示されていない出版社があるが、よいのか。
- 教材はどれも安易な問題設定であり、深く考えることはできないと思う。
- 道徳の読み物に文学作品を使い徳目を押し付けることに疑問を抱く。
- 「かぼちゃのつる」をわがままととらえるのはおかしい。
- 西郷隆盛の歴史認識をどう整理するのか。
- 各社に個性があり、びっくりした。
- 教科書に取り上げる人物を選定する基準はあるのか。

3 評価について

- ・ どのような評価をするのか。
- ・ 子どもの記述で評価をするのか。
- ・ 道徳は評価をするべきではない。
- ・ 先生の考え方で評価が変わると思う。評価されることで子どもの心が委縮し、言いたいことが言えなくなるのではないか心配だ。
- ・ 道徳は評価できるものではない。
- ・ 子どもたちがどのように評価されるのか親として心配だ。
- ・ 評価のことを考えると、別冊があるものがよいと思う。

4 各教科書会社について

○ 東京書籍について

- ・ 田中正造が短く編集されている。教材として十分な価値があるか。
- ・ 採択しないほしい。

○ 学校図書について

- ・ 「よみもの」「かつどう」の2冊に分かれているのはなぜか。
- ・ 6年生—「星野君の二墨打」・・・上の人の指示に従うのが当然という価値観を押し付けていると思う。

○ 教育出版について

- ・ 偉人の話が多く、身近でない。
- ・ 安倍首相の写真がなぜ使われなければならないのか理解できない。
- ・ 疑惑がある現職の首相の写真を掲載することに問題がある。
- ・ 自衛隊の航空ショーの写真を使用するのは、中立ではない。
- ・ 1年生—「かぼちゃのつる」・・・かぼちゃが悪者になっているのはおかしい。
「だいすきなかぞく」・・・なぜおばあちゃんは出てこないのか。
「あいさつ」・・・人によっておじぎの仕方を変えるのはおかしい。
- ・ 2年生—「国歌」の意味がちがう、押し付けるのは間違っている。
「れいぎ正しいあいさつ」・・・一つの価値観を押し付けている。
「るっぺ」「ますだくん」・・・発問の中に2人に寄り添う姿勢が感じられない。
「みにつけよう れいぎ・マナー」・・・職員室の入り方等を2年生に要求するのは無理。
- ・ 3年生—「国や郷土を愛する」・・・懐石料理は食べたことがない子どもにとっては、理解できない。
- ・ 6年生—「生かされている大切な命」・・・もっと大きい視野で命について話し合えるものがよい。子どもに理解できない。
「ひきょうだよ」・・・価値の押し付けを強く感じる。

- ・ いじめに関する題材が3年生で多いのは、この時期に指導する必要があるからか。
 - ・ 学習の手引きが、一方的な価値の押し付けになる。
 - ・ 子どもたちに見かけの正しさを押し付けようとしているように感じる。
 - ・ 全体的に価値の押し付けを感じる。
 - ・ 採択しないほしい。
- 光村図書について
- ・ 身近な暮らしの中からテーマが取り上げられており、子どもたちが受け入れやすいと思う。
 - ・ 5年生において子どもの権利条約、6年生において世界人権宣言が取り上げられており、評価できる。
 - ・ 表紙、巻頭の詩に共感した。ぜひこの教科書で授業をしたい。
- 日本文教出版について
- ・ 別冊があるが、書く量が多く、子どもの負担になるのではないか。
- 光文書院について
- ・ 教材の冒頭部分に学習のねらいがあり、わかりやすい。
- 学研教育みらいについて
- ・ 比較的使いやすそうである。

平成29年8月教育委員会議


平成30年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について

資 料 2

平成29年8月18日

広島市教育委員会様

広島市教科用図書採択審議会

会長 尼子博崇 

平成30年度から使用する「特別の教科 道徳」の広島市立小学校用教科用図書の採択について (答申)

平成29年5月24日付け、広市教学指一第33号で諮問されたこのことについては、別紙
のとおり答申します。

平成30年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島の子どもたちが、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。道徳教育においては、平成22年度に策定した「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」を活用して、指導方法を工夫し、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図るとともに、平成27年度には「広島市道徳教育プログラム」として改訂し、より一層の充実を図る取組を進めてきた。
- 平成28年度の全国学力学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査から、本市の児童は規範性や友達を受容・尊重し、協働しようとする意識は比較的高いが、外国人と積極的にコミュニケーションを図ったり地域活動に積極的に参加したりしようとする意識は低い傾向がうかがえる。また、いじめの認知件数は依然として憂慮する状況にある。児童が、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが重要である。
- 道徳の時間の指導については、教育委員会が実施する「道徳の授業力パワーアップ研修」等を通して授業改善に努めてきているが、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる「考える道徳」「議論する道徳」への転換は十分ではない。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 自己の生き方につなげるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 問題意識をもたせるための工夫 ④ 読み物教材における発問の工夫 ⑤ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 体験的な学習を取り入れた工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向 ⑧ 現代的な課題を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑨ 教材の内容を理解させる工夫
<言語活動の充実>	⑩ 考えることや議論が活発に行われるための工夫 ⑪ 自分の考えを書く活動を促すための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 2～6年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習を進めるために」として道徳科の学び方を、「気づく」「考える、話し合う」「振り返る、見つめる」「生かす」と示し、各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間が始まるよ!」として、道徳科の学習活動を、イラストで示している。
- 2～6年の巻頭に、見開き2ページで、四つの視点ごとに内容項目と教材名を示している。
- 各学年の目次の中には、四つの視点を示していない。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、毎時間分記入できる「学習の振り返り」ページと、長期休業前に記入できる欄があり、1年間の振り返りを記入するページもある。
- 内容項目ごとに、教材名の横に同じ主題名を示し、四つの視点を印、色で示している。
- 3～6年は教材の最後に、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 保護者や先生の記入欄は設けていない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 1・2年では、各教材の始めに、導入での発問を示している。また、3～6年の「問題を見つけて考える」には、とびらのページを設け、導入の発問や質問を示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 3～6年では、各教材の終わりに2つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)
 - ・ だれかがわがままを言うと、周りの人はどう感じますか。(教材名下)
- 【発問】「手品師」(第6学年)
 - ・ たった一人のお客様の前で、手品を演じているときの手品師の気持ちを書いて、話し合ってみましょう。
 - ・ あなたは、そうしたほうがよいと思ったことを行動に移せたことはありますか。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 3～6年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページに「問題を見つけて考える」印等で示し、「考えるステップ」を設けている。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の目次及び該当ページに、「出会う・ふれ合う」の印を使って示し、コミュニケーション活動等を促している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。
- 判型A B判
- 総ページ数

1年…120 2年…140 3年…162 4年…166 5年…178 6年…194

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	9	9	6	35
2	10	8	10	8	36
3	9	8	12	7	36
4	10	8	11	7	36
5	8	7	13	8	36
6	9	7	12	8	36

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 （低7 中7 高7）
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 （低3 中3 高4）

○ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	1	1
2	1	1
3	2	1
4	2	1
5	1	2
6	2	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、各学年、複数教材で構成し、「いじめのない世界へ」と目次に示している。
- 情報モラルについては、各学年、1つの教材を取り上げ、印を付け目次に示している。
- 重点教材として、各学年「いじめのない世界へ」「情報モラル」を目次に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクター「こころん」を使い、ポイントになる発問を示し、3～6年は自分の生活を見つめる発問も示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の学習を進めるために」「話し合いのやくそく」「ちょっとみんなで話し合ってみよう」で、話し合いのポイント等を示している。
- 教材の最後に、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、一部の教材に設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習を始めよう」として、道徳科の学び方を、イラストや吹き出しで示している。
- 各学年とも巻頭に、四つの視点ごとに内容項目等を示していない。
- 各学年の目次で、四つの視点を、印と色で分けて示している。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の本冊の巻末に、四つの視点ごとに内容項目と教材名を示し、学習した日付や印を毎時間分記入できる「道徳の学習をふり返ろう」ページがある。
- 教材ごとに、教材名の横に主題名を示し、四つの視点を内容項目、印、色で示している。
- 別冊「活動」に、自己の生き方につなげる発問を、「見つめよう」と示している。
- 保護者や先生の記入欄は設けていない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 導入の発問や質問は示していない。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年の別冊「活動」に、「はなしあおう」「かいてみよう」「やってみよう」「かんがえよう」「みつめよう」の印と、2～3つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)
 - ・ みんなから注意されたとき、かぼちゃはどんなふうに思っていたのでしょうか。
 - ・ つるを切られたかぼちゃは、泣きながらどんなことを思ったでしょう。
 - ・ やりすぎてしまって後悔したことや、がまんしてよかったことを発表しましょう。
- 【発問】「手品師」(第5学年)
 - ・ 「手品師」になったつもりで「男の子」と「友人」の間に立って二人と話し、手品師の心の様子を考えましょう。
 - ・ 友人のさそいを断り、男の子の前で手品を演じている時の手品師の気持ちは、どんなだったでしょう。
 - ・ 自分自身に誠実に行動して、気持ちがよいと思ったことについて話し合ってみましょう。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年で問題解決的な学習ができるよう、別冊「活動」の中に、「かんがえよう」「はなしあおう」「アクティブ」等の印で示し、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年別冊「活動」に、「やってみよう」の印を使って示し、体験的な学習活動を促している。また、巻末に、「活動のヒント(1・2年) 活動の資料(3～6年)」を設けて、体験的な学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊「かがやけみらい 小学校 道徳 ○年 活動」がある。
- 別冊は、内容項目ごとの配列で、本冊の教材に対応した発問や学習活動例、補足資料を示している。

- 判型A B判

- 総ページ数(別冊)

1年…122(50) 2年…130(50) 3年…142(50)

4年…158(50) 5年…154(54) 6年…154(54)

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	7	10	6	34
2	11	8	10	6	35
3	10	9	10	6	35
4	10	9	10	6	35
5	9	7	12	7	35
6	9	7	12	7	35

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 （低7 中7 高7）
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 （低3 中3 高4）

○ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	1	1
2	1	1
3	1	1
4	1	1
5	2	2
6	2	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、目次に示していない。
- 情報モラルについては、各学年、コラムを2つずつ示し、目次に示している。
- 重点教材として、各学年「オリンピック・パラリンピックがやってくる!」「気を付けよう、気づかおう」「言葉・情報モラル」「命のかがやき」「生き方を学ぼう」を目次に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクターの設定はないが、別冊で「アクティブ」を示す印等使い、発問や学習活動を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の学習を始めよう」、別冊巻末「活動の資料」で、話合いのポイント等を示している。
- 別冊で、「アクティブ」の印を使い、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、別冊に一部の教材に設けている。

意見

学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

学校図書の教科書の特徴である、別冊に本冊の教材に対応した発問や学習活動例、補足資料を示していることは、教師が問題解決的な学習を取り入れる手がかりや、児童が主体的に学習に取り組む、自己の生き方を広げたり深めたりする手がかりとなる。これらの特徴は、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる「考える道徳」「議論する道徳」への転換を推進している本市の取組や、児童が、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習が始まるよ」として、道徳科の学び方を、2ページ目に文章で示している。
- 各学年とも巻頭に、四つの視点ごとに内容項目等を示していない。
- 各学年の目次で、四つの視点を、印と色で分けて示している。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、1年間の振り返りを記入できる「1年間の道徳の学習をふり返ろう」ページがある。
- 内容項目ごとに、教材名の横と左ページの左上に同じ主題名を示し、四つの視点を印、色で示している。
- 教材の最後に、「学びの手引き」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 巻末に、保護者や先生からの一言欄がある。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「学びの手引き」を設け、3～6つの発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)
 - ・ みつばちに注意されたとき、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。
 - ・ 小犬に踏まれたとき、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。
 - ・ ぼろぼろぼろ涙を流したとき、かぼちゃはどんな気持ちだったでしょう。
 - ・ かぼちゃがしたこと、困ったところはどこでしょう。
 - ・ どうすれば良かったか、かぼちゃに教えてあげましょう。
 - ・ かぼちゃからどんなことを学びましたか。みんなで話し合ってみましょう。
- 【発問】「手品師」(第6学年)
 - ・ みなさんは誠実に明るく生きていますか。誠実に生きるとはどのようなことでしょうか。(教材名横)
 - ・ 友人からステージへの出演の電話を受けたとき手品師はどのようなことを考えていたでしょう。
 - ・ 手品師はどうして男の子のところへいったのでしょうか。話し合ってみましょう。
 - ・ 手品師のすばらしいところはどこでしょう。みんなの意見を聞いてみましょう。
 - ・ 誠実に生きるとはどのようなことでしょうか。自分の考えをまとめて発表しましょう。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年で問題解決的な学習ができるよう、「学びの手引き」を設け、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の目次及び該当ページに、「スキル」の印を使って示し、役割演技等の体験的な学習活動を促している。また、「学びの手引き」の中に、「ジャンプ」を設け、体験的な学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。
- 判型A B判
- 総ページ数

1年…122 2年…134 3年…138 4年…146 5年…154 6年…154

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	9	6	11	7	33
2	9	8	9	8	34
3	10	8	12	4	34
4	9	8	12	5	34
5	8	6	14	6	34
6	12	6	11	5	34

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 （低7 中7 高7）
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 （低3 中3 高4）

○ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	2	1
2	2	1
3	4	1
4	4	1
5	4	2
6	4	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、各学年、2～3教材取り上げ、「みんなと仲良くする」と印で目次に示している。
- 情報モラルについては、3～6年で取り上げ、印を付け目次に示している。
- 重点教材として、各学年「命を大切にする」「みんなと仲よくする」「情報モラルについて理解する」を目次に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクターの設定はないが、「学びの手引き」の中で子供のイラストを使い、児童の反応例を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の学習が始まるよ」で、話合いの意義等を示している。
- 教材の最後「学びの手引き」で、具体的に話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、一部の教材に設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 2～6年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間は」として、道徳科の学習活動を、イラストや吹き出しで示している。
- 各学年とも巻頭に、四つの視点ごとに内容項目等を示していない。
- 各学年の目次の中には、四つの視点を示していない。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 年間の学習を4つにわけ、学習のまとめりごとに、毎時間分記入できる「学びの記録」ページがあり、学びのまとめりごとに、まとめも記入できるようになっている。
- 教材ごとに、教材名の横に主題名を示し、四つの視点を印、学習のまとめりを色で示している。
- 2～6年は教材の最後に、「つなげよう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 保護者や先生の記入欄は設けていない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 2～6年は、各教材の始めに、導入での質問を示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう」、2～6年は「つなげよう」を設け、3～6つの発問を示している。また、太字で学びのめあても示している。

○ 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)

- ・ わがままをしないで生活することが大切なのは、どうしてかな。
- ・ かぼちゃがみんなの言うことを聞かなかったのは、どうしてでしょう。
- ・ ぼろぼろ涙をこぼして泣いたとき、かぼちゃはどんなことを考えたでしょう。
- ・ かぼちゃがつるを伸ばすとき、どんなことを考えればよかったのでしょうか。

○ 【発問】「手品師」(第6学年)

- ・ だれかと約束したのに守れなかったことって、ある？(教材名下)
- ・ 「誠実に生きる」とは、どういうことだろう。
- ・ 友人の「いい話」を聞きながら、手品師は、どんなことを思っていたでしょう。
- ・ 手品師は、どんな思いから、たった一人のお客様の前で手品をするを選んだのでしょうか。
- ・ 「誠実に生きる」とは、どんな生き方でしょう。
- ・ 誠実さって、どうして大切なんだろう。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年で問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに「考えよう」を設け、学習のめあてとともに主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「考えよう」の中に、体験的な学習活動を促すような発問を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。
- 判型B5判
- 総ページ数

1年…129 2年…153 3年…177 4年…185 5年…197 6年…209

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	10	8	11	5	34
2	10	8	12	5	35
3	9	9	12	5	35
4	9	9	12	5	35
5	9	9	11	6	35
6	8	9	11	7	35

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）

B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）

C：主として集団や社会との関わりに関すること
（低7 中7 高7）D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
（低3 中3 高4）

○ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	1	1
2	1	1
3	1	1
4	1	1
5	2	1
6	1	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、各学年、複数教材で構成し、3年～6年は、「いじめを許さない心」と目次に示している。
- 情報モラルについては、3～6年で取り上げ、教材とコラムで構成し、「情報と向き合う」と目次に示している。
- 重点教材として、読み物とコラムをあわせて学習することができるまとまりを目次に示している。1年「こんなこと、してない?」「きまりをまもらないと」2年「友達が作ったものは」「いやな気持ちかもしれないよ」3～6年「自然と共に」「いじめを許さない心」「世界とつながる」「情報と向き合う」「共に生きる」

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクター「こころん」「きらりん」を使い、疑問、考えるポイント、広げる発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の時間は」で、話し合う学習活動を挿絵で示している。
- 教材の最後「考えよう」で、具体的に話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、一部の教材に設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学び方」として、道徳科の学び方を、「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」と示すとともに、学習活動を、写真や吹き出しで示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、四つの視点ごとに内容項目を示し、2～6年には、例題を基に、道徳の意義についても示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、色で分けて示している。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の別冊に、毎時間分の学習の様子を確認できる欄があり、巻末には、授業の振り返りを記入できるページがある。
- 教材ごとに、教材名の横に主題名を示し、四つの視点を印、色で示している。
- 教材の最後に、「見つめよう、生かそう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 別冊の巻末に、保護者の記入欄がある。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での質問を示している。また、読み物教材の登場人物を絵で示すとともに、教材文のあらすじを示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年5～7教材で、教材に続く見開き2ページで「学習の手引き」や「道徳ノート」のページを設け、3～6つの発問を示している。また、各学年の別冊には、各教材で考えさせたいこと等の発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)
 - ・ 「わがままですよ。」と注意されるのは、どんな時ですか？(教材名横)
 - ・ かぼちゃは、ぼろぼろ涙をこぼしながら、どんなことを思ったのだろう。
 - ・ 周りの人の注意を聞いて、がまんすることができた時のことを、思い出してみよう。
- 【発問】「手品師」(第6学年)
 - ・ 「手品師」というお話をおして、みんなで考えましょう。(教材名下)
 - ・ 「明るく生きる」ことについて、手品師になりきって考えてみよう。
 - ①迷いに迷っている手品師の気持ちについて考えましょう。
 - ②チャンスを見送って、男の子との約束を果たそうと決心する手品師。その決め手となった思いは何でしょう。
 - ③たった一人のお客様の前で、手品を演じている時の手品師は、どんな気持ちだったでしょう。
 - ・ この学習を通して、どんな生き方が大切だと思ったかな。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページを印で示し、「学習の手引き」を設け、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「学習の手引き」の中に、役割演技や話し合い活動等の体験的な学習活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊「小学道徳 生きる力 ○ 道徳ノート」がある。
別冊は、本冊の教材順と同じ配列で、教材に対応した発問と記入欄、友達の考えを記入する欄、学習の振り返り欄を設けている。

- 判型A B判
- 総ページ数 (別冊)
 - 1年…146 (41) 2年…166 (42) 3年…178 (42)
 - 4年…186 (42) 5年…186 (42) 6年…186 (42)
- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	14	4	37
2	11	8	13	6	38
3	10	10	12	6	38
4	11	10	11	6	38
5	8	10	15	7	40
6	9	8	14	9	40

A：主として自分自身に関すること (低5 中5 高6)
 B：主として人との関わりに関すること (低4 中5 高5)
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 (低7 中7 高7)
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 (低3 中3 高4)

- 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	2	3
2	2	2
3	2	1
4	2	2
5	2	2
6	2	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、3年生以外の学年で、複数教材で構成し、「いじめをなくすために」と目次に示している。
- 情報モラルについては、3～6年で取り上げ、教材やコラムで構成し、「情報モラル」と目次に示している。
- 重点教材として、各学年「人との関わりいじめをなくすために」「人との関わり」「安全な暮らし」、3～4年「情報モラル」、5～6年「持続可能な社会」を目次に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクター「ココロウ」「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」を使い、疑問、考えるポイント、発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の学び方」、「学習の手引き」「心のベンチ」で、話し合う学習活動等を示している。
- 教材の最後「考えてみよう」や特設ページ「学習の手引き」で、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、別冊に教材ごとに設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間は、こんな時間です」として、道徳科の学び方を、「問いをみつける（1～2年）・問いをもつ（3～6年）」「考える」「話し合う」「まとめる」とイラストや吹き出しで示し、各学年の巻頭に、見開き2ページで、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、四つの視点ごとに、道徳の学習で学ぶ内容を示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、色で分けて示している。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、毎時間分記入できる「学びの足あと」ページがあり、まとめも記入できるようにになっている。
- 教材ごとに、教材名の横に主題名を示し、四つの視点を印、色で示している。
- 教材の最後に、「広げる」印と、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 保護者や先生の記入欄は設けていない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 各教材の始めに、導入での発問を示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年教材の下段に、吹き出しで2～7つの発問を示し、教材の終わりに、学習のまとめと生活に広げる発問を2つ示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」（第1学年）
 - ・ 注意されたのに聞かなかつたり、わがままをしたりすると、どうなってしまうのでしょうか。（教材名横）
 - ・ のびのびとすることは、悪いことかな。
 - ・ つるが切れてしまって、かぼちゃはどんなことを考えたのかな。
 - ・ かぼちゃはどうしたらよかったのか、考えてまとめましょう。
 - ・ わがままをしないためにこれからどんなことに気を付けたいか、家で話し合いましょう。
- 【発問】「手品師」（第5学年付録）
 - ・ あなたは、本気で悩んだことがありますか。（教材名横）
 - ・ 男の子に、「きっと来るよ。」と答えた時、手品師は、どのようなことを思っていたのかな。
 - ・ 「友人」から電話をもらって、手品師が悩んだのは、どんなことだったのかな。
 - ・ 手品師は、なぜ大劇場に出られるチャンスをことわったのかな。
 - ・ 手品師はどのような思いで、男の子の前で手品をしているのでしょうか。
 - ・ 手品師の生き方をどう思いますか。また、あなたはどのような生き方がしたいですか。
 - ・ 「誠実に生きる」とは、どういうことだと思いますか。みんなで話し合ってみましょう。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年で問題解決的な学習ができるよう、主題名の横や教材の下段に、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「広げる」の中に、学習したことが生活につながるような発問を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。

- 判型A4判 (変形)
- 総ページ数
1年…158 2年…166 3年…182 4年…186 5年…190 6年…194
- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	12	9	12	7	40
2	11	9	13	7	40
3	7	12	14	7	40
4	8	11	14	7	40
5	10	9	12	9	40
6	10	8	13	9	40

A : 主として自分自身に関すること (低5 中5 高6)
 B : 主として人との関わりに関すること (低4 中5 高5)
 C : 主として集団や社会との関わりに関すること
 (低7 中7 高7)
 D : 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 (低3 中3 高4)

- 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	2	1
2	2	2
3	3	1
4	2	1
5	2	1
6	4	1

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、目次に示していない。
- 情報モラルについては、各学年、1～2つの教材を取り上げ、印を付け目次に示している。
- 重点教材として、各学年「みんなでやってみよう」「みんな仲良し楽しい学校」「情報モラル」を目次に示し、その他の重点教材として、各学年「命の尊さ」、1～2年「善悪の判断」等、3～4年「友情、信頼」等、5～6年「相互理解、寛容」等も目次に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「トーリ」「わんだ先生」を使い、疑問、考えるポイント、発問等を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の時間はこんな時間です」で、話し合う学習活動を示している。
- 教材の最後に、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、一部の教材に設けている。

意見

光文書院の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。
 (理由)

光文書院の教科書の特徴である、巻頭に道徳科の学び方を示していること、教科書の使い方や道徳ノートの例を示していること、教材の終わりに、学習のまとめと生活に広げる発問を示していることは、広島市道徳教育プログラムを推進している本市の取組や、児童が、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に、対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の学習が始まるよ」として、道徳科の学習活動を、1ページ目にイラストや吹き出しで示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、四つの視点ごとに、内容項目と教材名を示している。
- 各学年の目次で、四つの視点を、色で分けて示している。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の巻末に、1年間の振り返りを記入できる「心の宝物」ページがある。
- 主題名は示していないが、内容項目ごとに、教材名の横に、四つの視点を言葉、印、色で示している。
- 教材の最後に、「考えよう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 保護者や先生の記入欄は設けていない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 導入の発問や質問は示していない。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう」を設け、2つ発問を示している。
- 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)
 - ・ 泣いているかぼちゃさんの気持ちを言ってみましょう。
 - ・ かぼちゃさんに、どんなことを教えてあげますか。
- 【発問】「手品師」(第5学年)
 - ・ 友人からのさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えたでしょう。
 - ・ 自分が手品師だったら、どんなことを大切にしますか。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の問題解決的な学習に適した教材には、目次及び該当ページを印で示し、「深めよう」を設け、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の目次及び該当ページに、「やってみよう」の印を使って示し、役割演技等の体験的な学習活動を促している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊はない。
- 判型A4判
- 総ページ数
1年…132 2年…136 3年…152 4年…156 5年…164 6年…168
- 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	9	6	34
2	11	8	10	6	35
3	9	9	11	6	35
4	9	9	11	6	35
5	9	9	9	8	35
6	9	9	9	8	35

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）

B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）

C：主として集団や社会との関わりに関すること
（低7 中7 高7）

D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
（低3 中3 高4）

- 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	1	1
2	1	2
3	2	2
4	2	2
5	2	2
6	2	2

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、目次に示していない。
- 情報モラルについては、各学年、1～2つの教材を取り上げ、掲載されているページに印をつけて示している。
- 重点教材として、各学年「情報モラル」「生命の尊さ」、1～2年「しっかり生きる」、3～4年「仲よく生きる」、5～6年「よりよく生きる」を目次等に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクターの設定はないが、学習活動を示す印等使い、発問や学習活動を示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分かち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の学習が始まるよ」で、話し合う学習活動を挿絵で示している。
- 教材の最後に、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、一部の教材に設けている。
また、3つの教材で重点化された学習の振り返りを書く欄を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 道徳科の学び方の示し方

- 2～6年の本冊の巻頭に、見開き2ページで、「道徳の時間はこんな時間」として、道徳科の学習活動を、文章で示している。
- 各学年の巻末に、見開き2ページで、四つの視点ごとに、内容項目と教材名を示している。
- 各学年の目次の中には、四つの視点を示していない。

(2) 自己の生き方につなげるための工夫

- 各学年の別冊に、毎時間分の授業の振り返りを記入できる欄があり、巻末には、自分のことを確認するページや話し合い活動の内容等を記録するページがある。
- 主題名は示していないが、四つの視点を印、色で示している。
- 教材の最後に、「考えよう 話し合おう」を設け、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 別冊の巻末に、保護者や先生に見てもらった記録欄がある。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題意識をもたせるための工夫

- 導入の発問や質問は示していないが、教材の始めに、学びのヒントを短く示している。

(2) 読み物教材における発問の工夫

- 各学年各教材の終わりに、「考えよう 話し合おう」を設け、2～5つの発問を示し、3～6年では、学習のめあても示している。また、各学年の別冊には、学習を通して考えたことを確かめさせる発問を示している。

○ 【発問】「かぼちゃのつる」(第1学年)

- ・ かぼちゃのつるは、どんな思いで、ぼろぼろ涙をこぼして泣いたのでしょうか。
- ・ どうしてわがままをしない生活が大切なのでしょう。

○ 【発問】「手品師」(第6学年)

- ・ 手品師の迷いと決断を通して、誠実であることのすばらしさについて考える。
- ・ 手品師は、どのように考えて迷っていたのでしょうか。
- ・ 手品師はどのようなことを考えて、友人のさそいをきっぱりと断ったのでしょうか。
- ・ 「ぼくにとっては」という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう。
- ・ 人に対して誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年で問題解決的な学習ができるよう、「考えよう 話し合おう」を設け、3～6年では「学習の道すじ」の中で、学習のめあてとともに、主体的に解決していくステップを示している。

(4) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年の「考えよう 話し合おう」の中に、体験的な学習を促すような発問を示している。また、3～6年では、「学習を広げる」の中に「活動しよう」とし、体験的な学習活動を促している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目の量と重点化の傾向

- 別冊「自分を見つめ、考える 道徳ノート○」がある。
別冊は、内容項目ごとの配列で、授業の振り返りや学習の記録を記入する欄を設けている。
- 判型A B判
- 総ページ数(別冊)

1年…118 (60)	2年…118 (60)	3年…126 (64)
4年…138 (64)	5年…162 (72)	6年…170 (72)

○ 内容項目の教材量

	A	B	C	D	計
1	11	8	10	5	34
2	11	8	11	5	35
3	10	9	11	5	35
4	10	9	11	5	35
5	11	8	10	6	35
6	11	8	10	6	35

A：主として自分自身に関すること（低5 中5 高6）
 B：主として人との関わりに関すること（低4 中5 高5）
 C：主として集団や社会との関わりに関すること
 （低7 中7 高7）
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 （低3 中3 高4）

○ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に係る教材数

	伝統	国際
1	1	1
2	2	1
3	2	1
4	2	1
5	2	1
6	2	1

(2) 現代的な課題を踏まえた内容の示し方

- いじめについては、目次に示していない。
- 情報モラルについては、各学年、1～2つの教材を取り上げ、3～6年で、目次に示している。
- 重点教材として、1～2年は安全教育に関する特集ページを設け、3～6年「命を守ること、生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」を目次等に示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- キャラクターの設定はないが、3～6年の「考えよう、話し合おう」の中で「学習の道すじ」の印を使い、学習のめあてを示している。
- どの教材にも、様々なタッチの挿絵と写真が使われている。
- 低学年では、分ち書きや文節改行を取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論が活発に行われるための工夫

- 巻頭の「道徳の時間はこんな時間」で、話し合いの意義等を示している。
- 教材の最後「考えよう 話し合おう」で、話し合う学習活動を示している。

(2) 自分の考えを書く活動を促すための工夫

- 自分の考え等を記入する欄を、別冊に内容項目ごとに設けている。